



ロンドンオリンピック ボクシングミドル級 村田諒太選手 金メダル

48年ぶりの快挙達成

この夏、日本中を沸かせたロンドンオリンピック。日本選手の活躍でメダルの獲得数は過去最多の38個。その選手団の中で本学から出場した村田諒太選手がボクシングで金メダルを獲得した。また、本学からは西塔拓己選手(競歩)、須佐勝明選手(ボクシング)も健闘を見せた。

写真提供：朝日新聞社

村田諒太 選手

「これからの人生が僕の価値」

8月11日、ボクシング男子ミドル級決勝で、五輪初出場の村田諒太選手(2008年経営学部経営学科卒/東洋大職員)が、エスキバ・ファルカン選手(ブラジル)に14-13で勝ち、金メダルを獲得した。

「研究されていた」。決勝戦を終えた村田選手は、試合を振り返って、こう語った。しかし最後まで徹底して自分のボクシングスタイルを貫き、1ポイント差で勝利をたぐり寄せた。

1904年セントルイス五輪から実施されてきたボクシングで、日本勢の金メダルは、64年東京五輪以来48年ぶり2人目。世界的に選手層が厚いミドル級での制覇は初めての快挙だ。

試合後、村田選手は「金メダルは狙っていた。夢じゃなく目標だった。ただ、これが僕の価値じゃない。これからの人生が僕の価値になるので、恥ずかしくないように生きていく」と語った。



写真提供：朝日新聞社

馴染みの顔ぶれに笑みがこぼれた初出勤

8月21日、五輪後初めて白山キャンパスに村田選手が出勤した。オレンジ色のネクタイを締め、金メダルを首から下げたスーツ姿で、学生や教職員ら約300人の大歓迎を受けた。「皆さんには心から感謝しています。競技に専念できるように協力して頂いたおかげで金メダルを取ることができました」とあいさつすると、集まった学生からは「世界ー！」と声援が飛んだ。



ロンドンオリンピック。その後…

● 新聞各紙号外が！ヒーロー出現に日本中が沸いた

決勝戦の8月12日、新聞各紙では村田選手の金メダル獲得を伝える号外が配られた。翌日の各紙面にも、笑顔でメダルを掲げるようすが大きく掲載され、一気に日本中の誰もが知る「日本のヒーロー」となった。帰国直後、新聞、テレビ、ラジオへひっぱりだこ。道を歩くと声をかけられ、握手を求められ、「日本がこんな状態になっているとは思わなかった」と、驚いていた。



朝日新聞の号外。日本にビッグニュースをもたらした

● 喜びの記者会見。清水選手との息もぴったり

帰国翌日の8月15日、日本アマチュアボクシング連盟主催のロンドンオリンピック記者会見が行われた。村田選手と、バンダム級銅メダルを獲得した清水聡選手(自衛隊所属)が出席。会場には100名を超す報道陣が集まり、歴史的快挙を成し遂げた2人に多くの質問が投げかけられた。



こんなリラックスした笑顔を引き出せるのも清水選手あってこそ

帰国直後の村田選手は「まずは息子を抱っこしたい」と父親の面をのぞかせた。

清水選手とは、選手村で同室、そして同年齢ということもあり仲が良い。ロンドンオリンピック中は自分たちなりの表現で激励があったという。「(村田選手の決勝戦前日)清水が銅メダルを獲得したので、清水と同じメダルは絶対嫌だと思いながら決勝戦を戦い抜きました(笑)」

● 栄誉賞、ベストジーニスト、始球式。各方面から嬉しい知らせも！

京都府、奈良県、東京都など各方面から「賞」の知らせが届けられた。ふるさとの京都・奈良では母校が大いに盛り上がっているという。また、東京ドームで始球式を務めるなど、各方面からオファーが殺到している。そして中でも珍しいのは、ベストジーニスト賞だ。普段はスーツがジャージの村田選手だが、授賞式の日にはカジュアルにジーンズを着こなし、注目を集めていた。

[おもな受賞]

- ・奈良県県民栄誉賞
- ・奈良市市民栄誉賞
- ・板橋区区民栄誉賞
- ・京都府スポーツ賞 特別栄誉賞
- ・東京都栄誉賞
- ・東京都民スポーツ大賞
- ・文京区区民表彰 スポーツ功労賞
- ・ベストジーニスト



写真提供：読売巨人軍

西塔拓己 選手 世界に挑んだ19歳。次はリオへ。

8月4日に行われた陸上の男子20キロ競歩。五輪初出場の西塔拓己選手(経済学科2年)は1時間22分43秒の25位という結果を残した。

レース後、西塔選手は「最低でも“自己ベストで16位以内”を目標としていたので、満足はしていません。中盤10~14キロぐらいのところで16位ぐ



帰国後は酒井監督とレースでのフォームをチェック。「トップ選手とは体幹の強さが違う。来年の世界選手権を目標に、世界と戦える体をつくりたい」

らいの位置にいたので、そのまま粘っていけば……」と悔しさをにじませた。

現地では陸上競技部の酒井俊幸監督、地元広島県の応援団などからの熱い声援を受けた。

「想像がつかない世界だった。至るところで歓声が上がってものすごかった。みんなから頑張れと声をかけてもらい、うれしかったです」と初めてのオリンピックに感動した様子だった。

須佐勝明 選手

念願の夢の舞台は…



写真提供：自衛隊体育学校

7月31日に行われたボクシング男子フライ級1回戦。須佐勝明選手(写真左/2008年法学部法律学科卒/自衛隊体育学校)は、18歳のメダル候補、ラミス選手(キューバ)に7-19で判定負けという結果に終わった。試合後、須佐選手は「応援してくれた人のためにもメダルを獲って残したいと思っていた。残念です」と語った。

「勇気を被災地へ」 7月28日(土)東京新聞夕刊

このような見出しで掲載された、ロンドンオリンピックの開会式入場行進のようす。その写真には国旗を振る須佐選手の姿があった。

ゆかりの選手「メダルで恩返しを」



須佐選手は高校卒業まで福島県会津若松市で過ごした。昨年3月の東日本大震災を振り返り、「五輪に出場して、福島を盛り上げたい」と決意。減量中だったが、「これが最後の五輪だから」と開会式に参加したという。この地を踏みしめ、「福島へ1番いい色のメダルを取って恩返しをしたい」と記されていた。

[訂正]「東洋大学報 第233号」P19 過去のオリンピック出場選手一覧表において一部記述が抜けてしまいました。この場を借りて、お詫び申し上げます。
梅田 昭彦氏 1972年/ミュンヘン/男子レスリングフリースタイル48kg級 6位入賞